２．教科に関する調査の結果（概要）

（１）調査問題の内容、課題等、指導改善のポイント

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている五つの領域（「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」）別の目標及び内容に基づき、全ての領域からバランスよく出題している。なお、中学校第２学年までの内容となるようにしている。

（例）■ 自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る（「聞くこと」の領域 ）
■ 文と文との関係を正確に読み取り、短い文章の概要を捉える（「読むこと」の領域 ）
■ 短い文章の要点を捉えて、考えとその理由を書く（「読むこと」、「書くこと」の領域 ）
■ 即興で伝え合うとともに、考えとその理由を述べ合う（「話すこと[やり取り]」の領域 ）
■ 説明を聞いて、考えとその理由を話す（「聞くこと」、「話すこと[発表]」の領域 ）

○課題等

聞くこと

◇ ある情報に関して話し手の交換がなく話されれば、情報を正確に聞き取ることはできている。〔1（1）〕

◇◆ 目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることはできているが、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることに課題がある。〔2 、 3〕

◆ 社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることに課題がある。〔4〕

読むこと

◇ 事実と考えを区別して読むことはできている。〔5（2）〕

◆ 自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることに課題がある。〔6〕

◇◆ 日常的な話題について、文と文との関係を正確に読み取ることはできているが、短い文章の概要を捉えることに課題がある。〔7（1）（2）〕

◆ 社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることに課題がある。〔8（1）〕

書くこと

◆ 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。〔8（2）〕

◆ 文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くことに課題がある。〔9（1）（2）〕

◇◆ まとまりのある文章を書くことについては改善の状況にある可能性はあるが、引き続き課題がある。〔10〕

話すこと[やり取り]

◆ 即興で伝え合うことに引き続き課題がある。〔話すこと 1（1）（2）（3）〕

◆ 日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うことに課題がある。〔話すこと 1（4）〕

話すこと[発表]

◆ 社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題がある。〔話すこと 2〕

◇･･･比較的できている点　　◆･･･課題のある点　　〔 〕内の記号は、問題番号

○指導改善のポイント

聞くこと

○　自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る指導の充実

・　話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報かを判断した上で聞き取ることが重要である。指導に当たっては、自分の置かれた状況を把握できているかどうかと、何を聞き取ればよいかを理解しているかどうかを確認することが大切である。その上で、それらに関連する語句や表現に着目して、必要な情報を聞き取ることができるように指導することが考えられる。

読むこと

○　説明文を読んで、概要を捉える指導の充実

・　段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることが重要である。指導に当たっては、語と語の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりにしながら、段落内の情報の関係を正確に把握することが大切である。また、各段落の主な内容を関係付けていくことにより、文章全体の大まかな内容を捉えることも求められる。

書くこと

○　読んだことを基に自分の考えとその理由を書く指導の充実

・　読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現することが重要である。指導に当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど領域を統合した言語活動を行うことが大切である。

○　言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける指導の充実

・　言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手との関係性を意識し、場面や状況に応じた適切な表現を選択することが重要である。指導に当たっては、実際のコミュニケーションにおいて複数の表現を取り上げた上で、使用した表現を共有し、分類や比較を通して言語の働きを考えることが大切である。

話すこと[やり取り]

○　基本的な語や文法事項等を理解し、即興で伝え合う指導の充実

・　文法事項の形式や意味の理解に加え、どのような場面で使用できるのか理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることが重要である。指導に当たっては、内容の伝達に重点を置きながらも、生徒が自ら発話した表現を書き出して修正点を考えたり、教師がフィードバックを与えたりするなどして、正確さに意識を向けることが求められる。

話すこと[発表]

○　聞いたことを基に自分の考えとその理由を話す指導の充実

・　話される内容を理解した上で、聞いて得た知識や情報について自分の考えやその理由を整理し、既習の表現などを活用して相手に伝わるように話すことが重要である。指導に当たっては、日頃の授業から聞いたり読んだりして得た知識や情報をメモにしたり、図式化したりしたことを基に、生徒が自分の考えを述べる機会を設定することが大切である。

知識及び技能

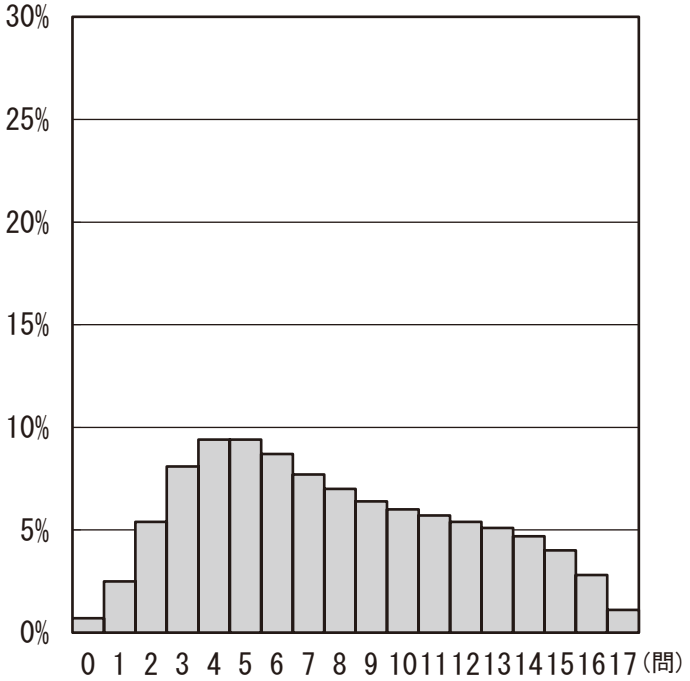
○　実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける指導の充実

・　音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を理解するだけでなく、実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにすることが重要である。言語活動を行うに当たっては、言語材料について理解したり練習したりするための指導を十分に行う必要がある。既習事項を繰り返し活用し定着を図ることができるように言語活動を工夫することも大切である。

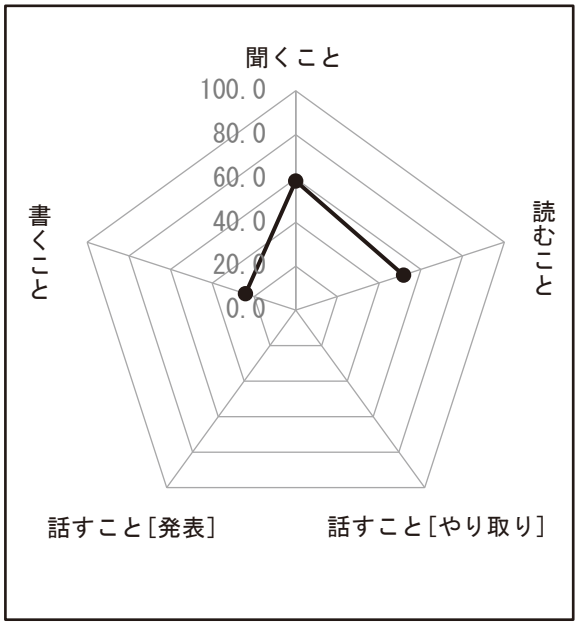
（２）集計結果（正答等の状況）
【英語】●聞くこと、読むこと、書くこと

生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
923,981 人	7.8 問/17 問	46.1%	7.0 問	4.2 問	4 問

正答数分布グラフ（横軸:正答数、縦軸:生徒の割合）



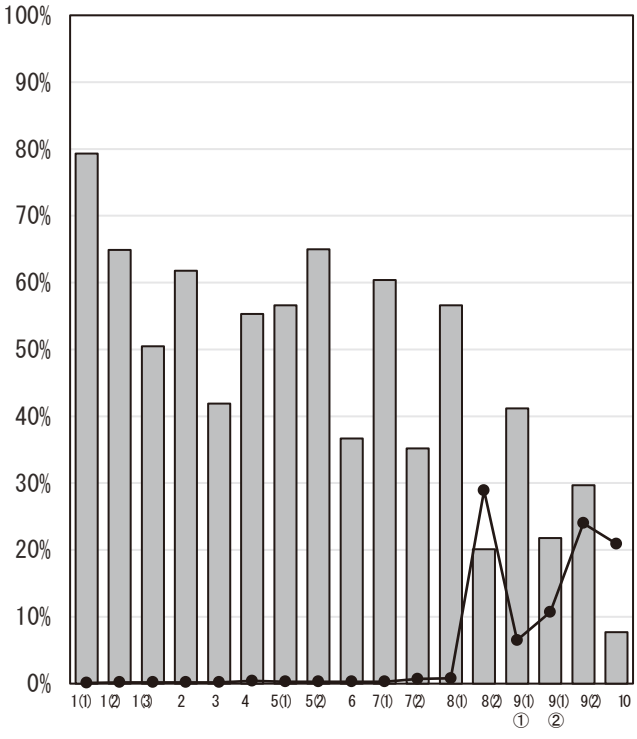
学習指導要領の領域の平均正答率



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）
学習指導要領の領域	聞くこと	6	58.9
	読むこと	6	51.7
	話すこと［やり取り］		
	話すこと［発表］		
	書くこと	5	24.1
評価の観点	知識・技能	9	52.1
	思考・判断・表現	8	39.4
	主体的に学習に取り組む態度	0	
問題形式	選択式	12	55.3
	短答式	3	30.9
	記述式	2	13.9

問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」
（横軸：問題番号、縦軸：生徒の割合）



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率（％）	無解答率（％）
			聞くこと	読むこと	話すこと［やり取り］	話すこと［発表］	書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式		
1（1）	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			79.3	0.1
1（2）	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する		○					○			○			64.9	0.2
1（3）	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する		○					○			○			50.5	0.2
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア						○		○			61.8	0.2
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア						○		○			41.9	0.2
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ						○		○			55.3	0.4
5（1）	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる		○				○			○			56.6	0.3
5（2）	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる		○				○			○			65.0	0.3
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる		ア					○		○			36.7	0.3
7（1）	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる		○				○			○			60.4	0.3
7（2）	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる		イ					○		○			35.2	0.7
8（1）	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる		ウ					○		○			56.6	0.8
8（2）	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる					ウ		○				○	20.1	28.9
9（1）①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現（be going to）の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○				○		41.2	6.5
9（1）②		疑問詞を用いた一般動詞の２人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○				○		21.8	10.7
9（2）	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○				○		29.7	24.0
10	学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを１つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○				○	7.7	20.9

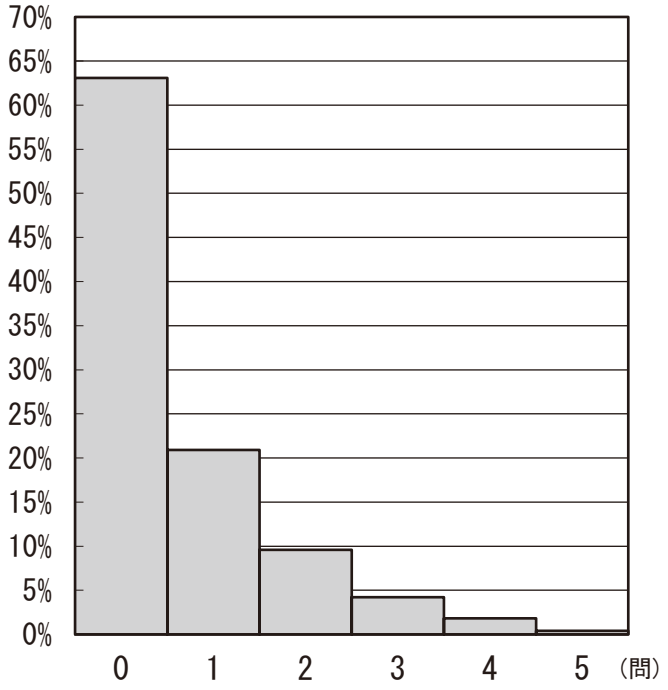
（２）集計結果（正答等の状況）

【英語】●話すこと

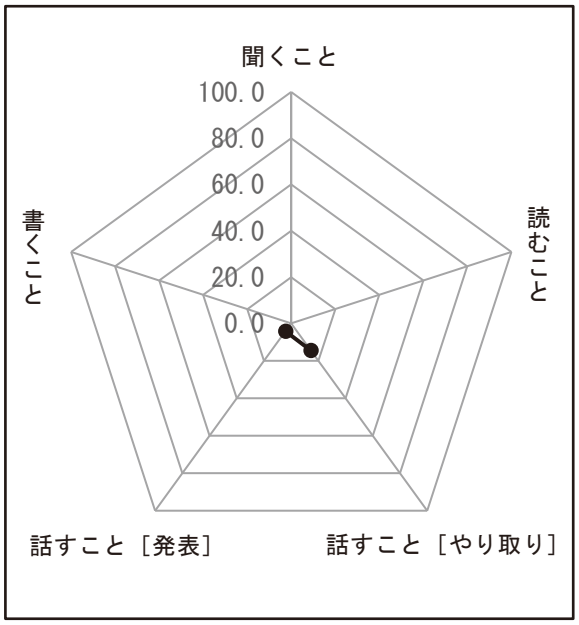
生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
41,966 人	0.6 問/5 問	12.4%	0.0 問	1.0 問	0 問

※「話すこと」に関する調査の結果については、調査日に「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」の調査を実施し、かつ１回目で正常に全ての音声データが登録された 41,966 人の結果から平均正答率等を推定。

正答数分布グラフ（横軸:正答数、縦軸:生徒の割合）



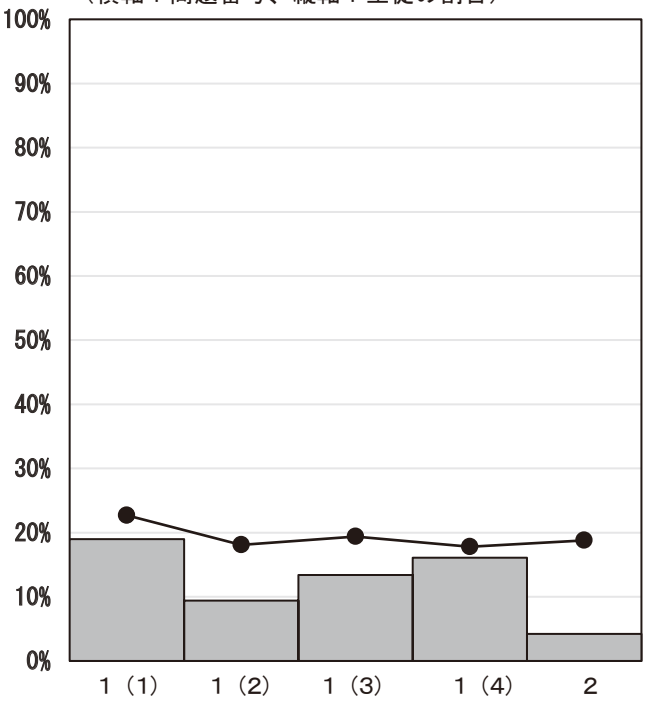
学習指導要領の領域等の平均正答率



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）
学習指導要領の領域	聞くこと		
	読むこと		
	話すこと［やり取り］	4	14.5
	話すこと［発表］	1	4.2
	書くこと		
評価の観点	知識・技能	3	13.9
	思考・判断・表現	2	10.1
	主体的に学習に取り組む態度	0	
問題形式	選択式	0	
	短答式	3	13.9
	記述式	2	10.1

問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」
（横軸：問題番号、縦軸：生徒の割合）



問題別集計結果

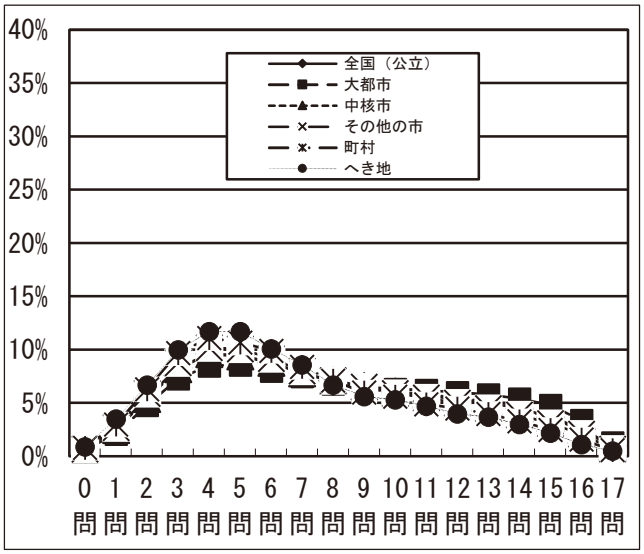
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率（％）	無解答率（％）
			聞くこと	読むこと	話すこと［やり取り］	話すこと［発表］	書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式／口述式	記述式／口述式		
1（1）	動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、ゾウの誕生日を伝える	日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			ア			○				○		19.0	22.7
1（2）	動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、次の予定を伝える	未来表現（be going to）を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			ア			○				○		9.4	18.1
1（3）	動物園でのやり取りの中で、カンガルーが食べるものについて留学生に質問する	疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			ア			○				○		13.4	19.4
1（4）	動物園でのやり取りの中で、留学生の質問を受け、お土産としてふさわしいものとその理由を伝える	日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うことができるかどうかをみる			ウ				○				○	16.1	17.8
2	環境問題についてのプレゼンテーションを聞き、話し手の意見に対する自分の考えとその理由を伝える	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる				ウ			○				○	4.2	18.8

（３）地域の規模等の状況

○　平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差を見ると、地域の規模等（公立：大都市、中核市、その他の市、町村、へき地）による大きな差は見られない。

［英語］

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
全国（公立）	893,528人	7.7 / 17問	45.6%	7.0問	4.2問
大都市	225,121人	8.3 / 17問	48.6%	8.0問	4.3問
中核市	205,699人	7.8 / 17問	45.6%	7.0問	4.1問
その他の市	374,341人	7.4 / 17問	43.7%	7.0問	4.0問
町村	78,205人	7.1 / 17問	41.6%	6.0問	3.9問
へき地	13,920人	6.8 / 17問	39.9%	6.0問	3.8問

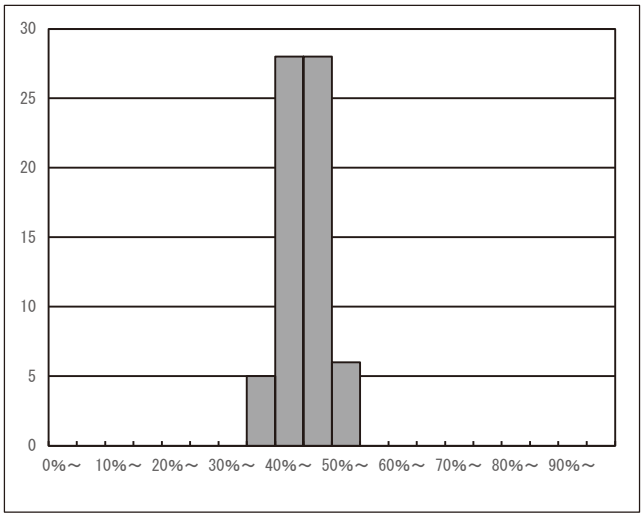
※大都市（政令指定都市及び東京 23 区）、中核市、その他の市、町村の値は、当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する生徒の調査結果（正答数）を集計したものである（都道府県立学校は含まない）。
※へき地の値は、へき地教育振興法及び各都道府県の条例（規則）によって指定された学校に在籍する生徒の調査結果を集計したものである。大都市、中核市、その他の市、町村の値に重複する。

（４）都道府県・指定都市の状況

○　各都道府県・指定都市（公立）の状況については、平均正答率を見ると、全ての都道府県・指定都市が平均正答率の±10%の範囲内であり、大きな差は見られない。

［英語］

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：都道府県・指定都市数）



全国（公立）の平均正答率	全都道府県市（公立）中、最高平均正答率【全国との差】	全都道府県市（公立）中、最低平均正答率【全国との差】
46%	53%【+7%】	36%【−10%】

※都道府県は指定都市を除く。全国（公立）の平均正答率は整数値で表示している。

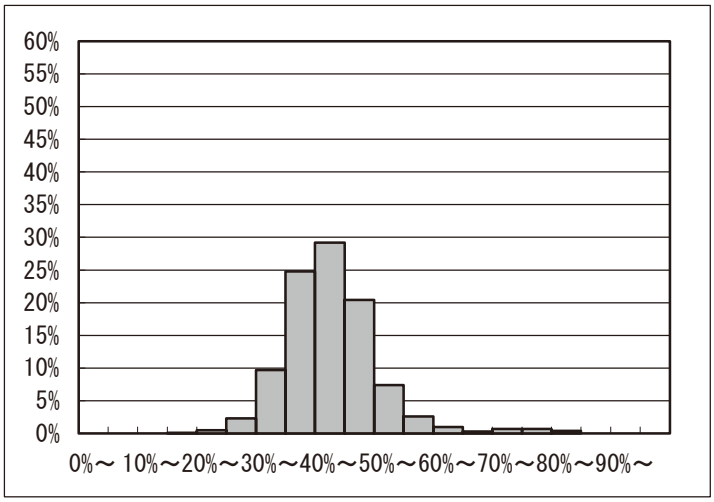
（５）教育委員会の状況

○　各教育委員会の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、平成 31 年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

［英語］

教育委員会数	教育委員会の平均正答数	教育委員会の平均正答率	教育委員会の中央値	教育委員会の標準偏差
1,789	7.3 / 17問	42.8%	41.9%	8.1%

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：教育委員会の割合）



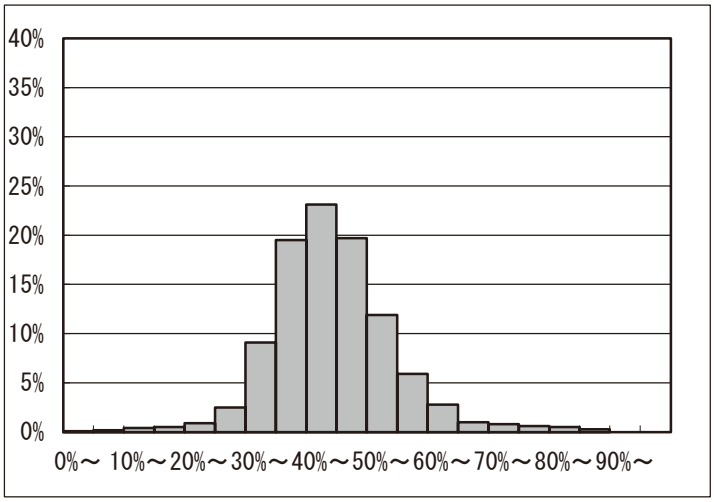
（６）学校の状況

○　各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、平成 31 年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

［英語］

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率	学校の中央値	学校の標準偏差
9,697校	7.6 / 17問	44.4%	43.6%	10.3%

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：学校の割合）

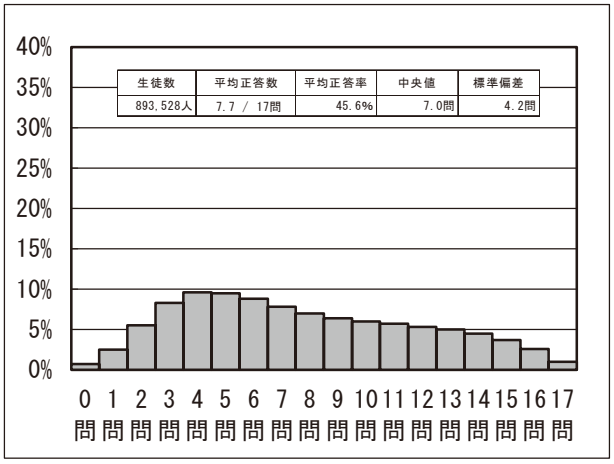


（７）国・公・私立学校の状況

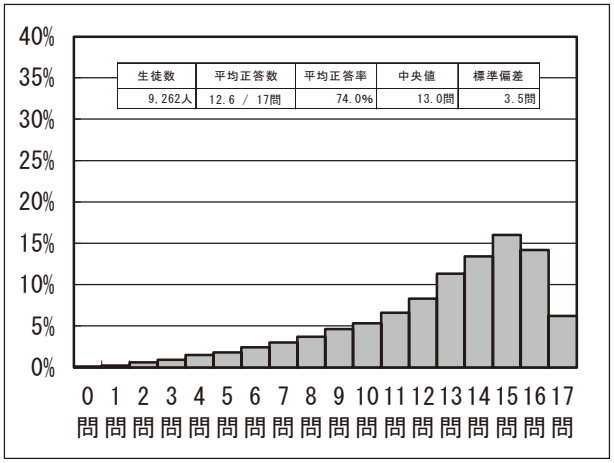
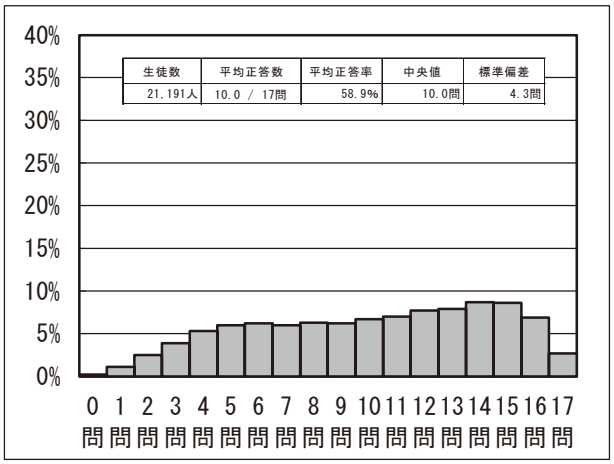
○　国立･私立学校は一般的に入学者選抜を行っていることに留意する必要があるが、平均正答数について見ると、国立・私立学校は、公立学校を上回っている。

［英語］

＜公立＞　正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



＜国立＞　正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



＜私立＞　正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）